

アイビツク食品が飛躍を期して新体制をスタート

だし・たれ・スープ製造、食品加工の「アイビツク食品」(本社・札幌市)が役員を改選。副社長の牧野克彦氏が社長に就任し、6月1日から新体制をスタートさせた。

アイビツク食品は、北海道産の原材料を用いただしやラーメンたれ、調味料などを製造する食品加工大手。5月30日にオンライン形式の事業計画発表会を実施。役員改選で副社長の牧野克彦氏が6月1日付で社長に就任した。



衛生管理を徹底し、製品づくりをおこなっている

同社は2002年の設立。釣具卸・販売の「アイビツク」などで構成するアイビツクグループ(牧野利春代表)の一員。18年には惣菜製造の「総菜開発」(本社・札幌市)を子会社化し業容を拡大したほか、昨年10月には札幌市白石区に新工場を建設。さらに製造拠点を中国に設立し、海外進出を果たしている。4月には資本金を5000万円に増資。新たな局面に向かうこの時期に、一層の飛躍を期して世代交代を進めた格好だ。牧野社長は、就任に際し

「グループの連携をより強固なものにし、さらなる豊かさを求める企業経営をおこなっていく」と抱負を述べた。今回のコロナ禍においても、ICTを活用したHACCPをいち早く導入。顔認証システムによる非接触のドア解錠やサーモセンサーによる体温管理など、徹底した衛生管理を実施した。新社長の陣頭指揮の下で、万全の体制で製品づくりに取り組んでいる。